

密集市街地における日陰の公平性

大学研究論文

学生 鈴木美咲	学籍番号 U-7301	科目 UNI-410・大学研究論文
担当教員 ハサン・ナディア教授	学校・大学 港大学	提出日 2026年7月18日

文字数

2,680

要旨

本課題は、明確な問い、記録された根拠、提示資料の範囲に限定した結論によって「密集市街地における日陰の公平性」を検討する。

序論

根拠は「密集市街地における日陰の公平性」に関する実践的な主張を支持する一方、最も大きな限界も明示している。

記録された観察には一貫した傾向が見られる。各結果を問いに結び付けるが、相関を確実な因果関係とはみなさない。

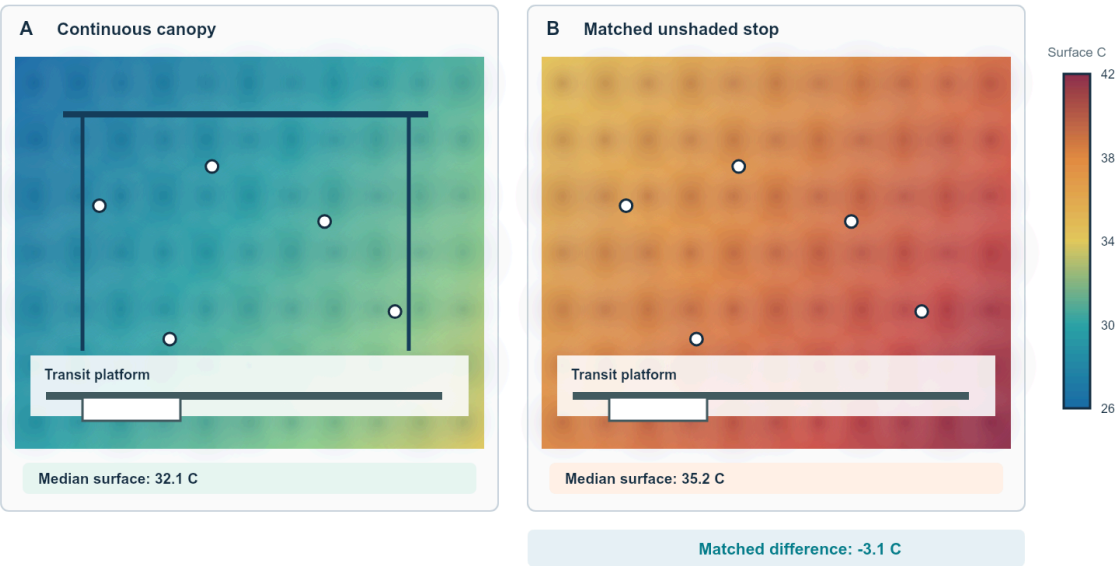
方法

手順は主要な変数を統制し、各段階の単位を記録しており、別の生徒が再現できる。

標本数が少なく、統制できていない要因が結果に影響する可能性があるため、結論は慎重に限定する。

Surface-temperature field maps

Matched stops, same routes and observation windows; dots show sensor positions



結果 1 記録された観察には一貫した傾向が見られる。各結果を問いに結び付けるが、相関を確実な因果関係とはみなさない。

結果

指標	値	解釈
A	-3.1	結果は予想された方向に変化し、示された測定範囲内に収まった。
B	-1.7	標本数が少なく、統制できていない要因が結果に影響する可能性があるため、結論は慎重に限定する。

考察

提示された根拠を総合すると問いに答えることができ、「密集市街地における日陰の公平性」に必要な次の検証も示せる。

参考文献

1. 課題で提示された授業資料と観察記録。